

就労支援コーディネーター 活動報告

9月	Vol.11	タイトル 「一歩ずつ…」	就労支援 コーディネーター Y
<p>昨年の 12 月に就労支援コーディネーターとして入職し、いまだに手探り状態でアップアップした日々を過ごしています。以前は、就労移行支援事業所に勤務しており、その時に就職した利用者の方とセンターで再会し、今も頑張っている姿をみると、懐かしさと嬉しさでいっぱいになります。その方が働き始めた頃には、新しい環境に慣れずに落ち込んでいたり、大丈夫かな？と心配することもありましたが、そんなことも今では笑って話せるほど、自信と余裕が感じられます。</p> <p>自分自身、新しい環境に戸惑う事ばかりですが、一つ分かったことがあります。それは、センターと就労移行支援事業所の一番の違いは、利用者の方と一緒に過ごす時間の長さではないかということです。就労移行支援事業所では、利用者の方とほぼ毎日会うので、ついついその方の言動に対する見方が甘くなっていた気がします。これはその方の特徴だからと受け入れてしまっていた部分も大きく、実際の職場ではどうかという企業目線が欠けていたと、今になって反省しています。また、いつでも話が聞けたり、作業の様子が見れる環境に甘えてしまい、日々の作業の中でアセスメントを意識出来ていなかったとも思います。逆にセンターでは、限られた時間の中で、その方を知り信頼関係を作っていくことになります。最初の電話や、センターに入ってこられた時から、アセスメントは始まっています。だからこそ、その限られた相談や支援の時間がとても大切なのだと、日々実感しています。</p> <p>コーディネーターの最初の仕事は、障がいのある方が“働くことへの一歩を踏み出すお手伝い”になると考えます。その方の思いに寄り添いながら、欲張らず今の自分にできる事に、しっかり取り組んでいこうと思います。まだまだ緊張の連続ですが、安心して任せてもらえるようになることを目標に、少しずつでも一緒に前に進んでいけたらと思っています。</p> <p>これからも、どうぞよろしく願いいたします。</p>			

7月	Vol.10	タイトル 「伝えることの大切さ」	就労支援 コーディネーターT
<p>九州北部豪雨災害により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。</p> <p>先日、高齢者施設で働いているAさんと施設長の面談に同席させていただく機会がありました。5か月前、就職された頃のAさんは、緊張が強くとことなく不安げな表情をされていました。そのAさんが、私を見るなりにっこり笑いあいさつをしてくださいました。これまで幾度も、面談や会社訪問の際にお会いしていたのですが、その時見せてくださった表情は言葉に言い表せない素敵な笑顔でした。就職してからは、環境の変化やストレスがかかり、様々な悩みが生じたと思います。様々な経験を積み重ねていく過程で自信を深め、一歩ずつ前進してこられたのだと感じました。</p> <p>さて、今回の面談ではAさん自ら、「少しずつ勤務時間を延ばし、ステップアップしたい。また、資格を取得して新しい業務にチャレンジしたい。」という思いを話してくださいました。寡黙で気持ちを伝えることが得意ではないことを考えると、勇気を振り絞って思いを伝えてくださったのだと思い、胸が熱くなりました。施設長もAさんの働きぶりを評価して下さり「Aさんのペースで構わないので、自信をもって働いてほしい。将来的に様々な仕事にチャレンジしていただきたい。」との思いを伝えてくださいました。</p> <p>振り返って考えると、Aさんが勇気を出して夢を伝えてくれたからこそ、とても嬉しく思える瞬間を味わえたのだと思います。私自身、伝えたいことがあってもタイミングや相手がどのように反応するのか考えていると伝えられないまま時間が経過した経験があります。発信しないと思いは相手に伝わらない。当たり前のことですが再確認する機会となりました。伝えることの難しさを実感する日々ですが、伝えることはもちろん、伝わりやすい表現をすることを心がけていきたいと思います。</p>			